

オルガノが薬注システム紹介

膜先端機構 大先研究 神戸大学 工学研究 春季講演会・サロン開く

ファウリング管理を兼ね備えた薬注最適化システムを紹介した。

また、RO膜の1次側と2次側の浸透膜差を最小限にとどめながら運転するOARO法を用いて、排水中の硫酸アンモニウムを濃縮する実証実験を実施。目標濃度の25wt%と約2カ月の安定運転を達成し、薬品費が生物処理に比べて約5分の1に削減できるとまとめた。

環境省の講演「水環境行政の動向と課題」では、人の健康保護で55項目（公共用水域27項目・地下水28項目）、生活環境保全で13項目（公共用水域のみで水生生物保全3項目を含む）設定している水質環境基準や、気候変動に対応した閉鎖性海域の汚濁負荷量削減の取り組みを説明。当面の主要課題として、海洋プラスチック汚染や有機フッ素化合物対策などを挙げた。

サロンでは、「膜ファウリングについて考える」MF膜編「高透水性・高濁度対応膜モジュールの開発と応用」などを

テーマに、話題提供や意見交換。ポスタープレゼンテーションの水処理膜研究部門では、「高分子の親疎水性が膜透過に与える影響の評価」として、正浸透膜法の駆動溶液が膜内での逆拡散流束に及ぼす影響などが披露された。

水道産業新聞

2023年（令和5年）4月27日（木曜日）

産学連携で膜工学の先端研究などを推進している神戸大学先端膜工学研究推進機構はさきごろ、膜工学春季講演会・膜工学サロンを同大学内で開催した。産官学による3題の講演、水処理など11グループで討論するサロンに加え、4年ぶりとなる学生ポスタープレゼンテーションも行われた。

講演会では、オルガノが「水処理膜向け薬品と排水濃縮システムの事例紹介」と題し、スライムコントロール剤などRO（逆浸透）膜の水処理薬品と遠隔監視システム、



講演会が行われた3題の講演